

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	聴覚・ろう重複センター楓		
○保護者評価実施期間	2024年 11月 11日		2024年 11月 26日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	35	(回答者数) 14
○従業者評価実施期間	2024年 11月 11日		2024年 11月 26日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	3	(回答者数) 3
○事業者向け自己評価表作成日	2024年 12月 13日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	幅広い年齢層の子どもたちが集まり、関わりが持てる環境であること	日頃から年齢や特性などを考慮し本人に合わせた対応を行なうことで、上級生が職員に倣って自然と下級生のサポートをし、またそれを職員がフォローできる環境や体勢を整えている	コミュニケーションを大切にし、子ども同士での関わりが持てるような遊びや活動、きっかけを提供する また、子どもたちにとってのロールモデルであることを職員が理解し、自身の支援を振り返ると共に、職員同士での相談や共通理解に努める
2	活動や企画の充実さ	平日の短縮授業日や休日に、様々な企画を検討、実施している 定番イベントから、子どもたちの「行きたい」「やりたい」の提案を受け、実現できるよう計画や準備、十分な職員配置を行なっている	目的を持った企画内容を検討し、より充実させる 地域との交流や社会参加の機会を設ける
3	聴覚障害や個の特性に応じた専門性ある支援に取り組んでいる	手話や口話、身振り、写真カードなど、一人ひとりに合わせた視覚的コミュニケーションを大切にしている	日々の振り返りを丁寧に行ない、子どもたちの変化や成長を職員間や保護者、相談員と共有する より専門性を高めるために、内部研修を充実させ、共通認識を持って実践に活かす

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者同士の交流機会が少ない	保護者会などの開催がなく、交流の機会を設けていない	交流のニーズを把握し、企画立てを検討する また、日頃からコミュニケーションや発達について相談しやすい環境、雰囲気作りを行なう
2	各種マニュアルの策定や、非常時を想定した定期的な訓練を実施しているが、周知が十分ではない	災害時や感染症などの対応マニュアルを作成し、長期休暇中などに避難訓練、机上訓練を行なっているが、情報発信が不足している	面談の機会に改めて周知を行なうとともに、公式LINEやSNSを活用して取り組みを発信する
3			